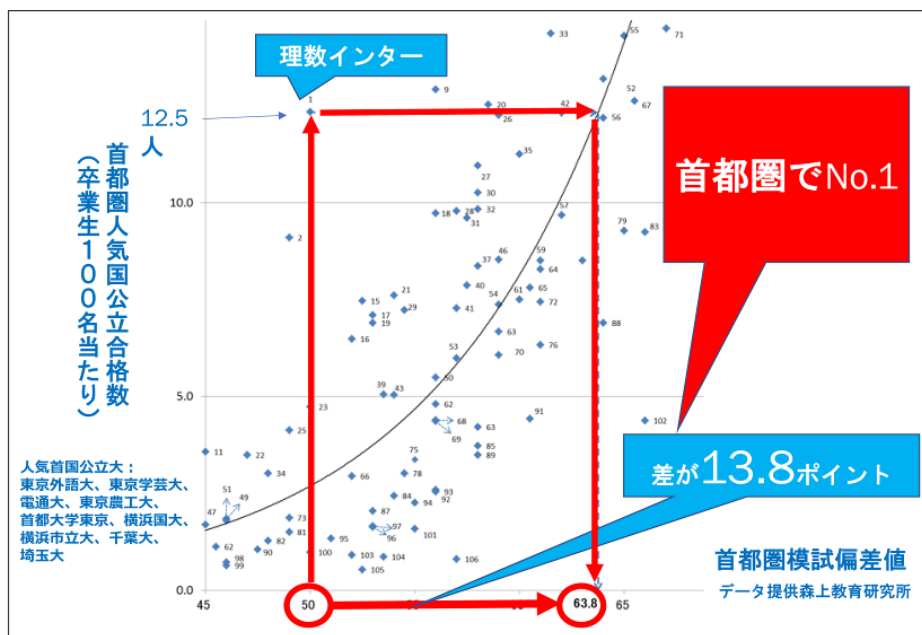


ではなかったかと振り返ります。

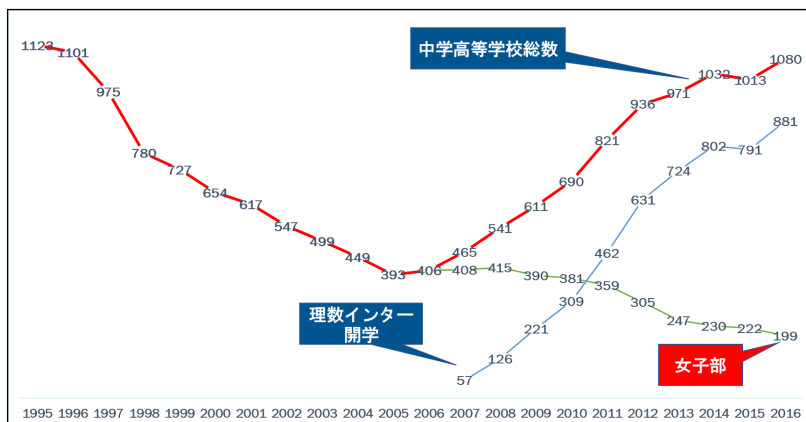
前回の文章では、結論部分を「宝仙学園のこれからの10年」という小見出しとし、『理数インター』は、受験アナリストのレポートによれば、『学力を伸ばしてくれる学校』として評価（資料1）を得ています。この評価を揺るぎないものとするよう、進学校としてあらゆる努力をしていくことは、もちろんです。」と書いていました。

（資料1）学力を伸ばす学校 No.1（2016 年度入試）



学力を伸ばす学校という外部評価が、生徒数の増加に結びついた（資料2）のであろうということもあり、いま読み直すと、中学受験で偏差値上位校というポジションを得られずとも、生徒と教員の尽力で学力を伸ばす学校というカテゴリーで評価を得られたことに対して、素直に喜びを表しています。

（資料2）理数インター開設10年後までの中学校・高等学校生徒数



3. わたしの中学受験観と脱ペーパーテストの試み

そもそも、中学受験観ということでは、わたしは、小学生が合否結果のわからない入試のために努力すること自体が、勇気ある挑戦と考えています。また、小学生保護者が中学受験の準備をさせるのは、学習習慣を身に着けさせるのに合理的な手段と考えているからだとしたら、それはもっともな考え方だと思っています。したがって、受験生にも保護者にも、中学受験は、合否結果にかかわらず、努力を継続する難しさと尊さを実感できることを、素晴らしい体験と捉えてほしいと思っています。受験する機会が持てる家庭が少数派であればこそ、その恵まれた機会を行使するにあたってのマインドセットは、そのように思います。

そのうえで、わたしは、従来の中学受験のあり方に対して、これだけでいいのかという思いを持っていたことも事実です。

たとえば、

- ・ 12 歳の実力をはかるのが算数・国語・理科・社会の偏差値だという考え方は、4 科偏重。2005 年に都立中高一貫校が出現し、適性検査と作文の入試を実現しましたが、たとえばペーパーテスト以外の入試があってもよいのではないだろうか。
- ・ ちなみに「英語 4 技能」とは、「読む・書く・聴く・話す」のことだが、中学受験で問われる技能は、「読む・書く」だけ。「聴く・話す」力を問う入試があってもよいのではないか。しかも、まずは論理的な日本語を正確に聞くことを問う入試があってもよいのではないか。
- ・ もちろん、塾や模試で努力したことは尊重されるべき学習歴である。同様に、たとえばグラウンドや舞台での活躍も立派な学習歴である。学習歴という観点に立てば、それはすべての小学生にあるはずではないか。そしてその学習歴を、本人に話してもらうことをとおして、評価するという入試があってもよいのではないか。

こうした考え方は、中学入試を学力選抜試験とみなし、その学力は主要教科とされた特定教科の偏差値に基づく、という中学受験の常識を疑ってみたところから出てきたものです。都立中高一貫校の適性検査も、同様の問題意識を持っていたのではないかと感じていました。そこで「理数インター」も、創設 3 年目から、本校オリジナルの適性検査型入試もペーパーテストで取り入れはじめました。

しかし、脱ペーパーテスト型入試を実施するのは次元の違う話になります。それでもどうか、それだからこそ、やってみようという気持ちが勝ったのは、わたしの中学受験観に共感する同僚がいたからであり、この入試を創造する仲間がいたからです。その力を得て、その名も「リベラルアーツ入試」を加えた中学入試を実施したのは、2017 年（前回寄稿の翌年）からでした。リベラルアーツ入試は、論理的な日本語を聴くだけで設問に答える日本語リスニングというパートと自分の学習歴をプレゼンテーションするというパートから構成されています。リベラルアーツ入試と名付けたのは、リスニングとプレゼンテーションは、現代の教養として重要な学力と考えたからです。

4. 直近 10 年の生徒数と大学合格実績そして学校文化の展開

2017 年入試の「リベラルアーツ入試」を皮切りに、脱ペーパーテストの試行は進み（以下、「新タイプ型入試」と表記）、2018 年入試からは「日本一入試方法の多い中学校」と標榜するに至り、2025 年入試には「12 歳の中学入試は、12 種類」を謳う「理数インター」になりました（資料 3・4）。

（資料 3）日本一入試方法の多い学校（左：2018 年度入試用、右：2026 年度入試用）



（資料 4）12 歳の中学入試は、12 種類

最新情報

校長blog 第96回「12歳の中学入試は、12種類」

2024/9/30

昨日刊行の首都圏模試センター『syuTOMO』10月号に、本校の12種類の中学入試方法が、あらためて紹介されています。

12歳の個性を12とおりの方法ではかる。

12番目にはじめてのが、「医学進学入試」で、今年度から加わった入試です。

この入試は、本校が順天堂大学の系属校となったことをきっかけに、将来医師になりたいと志す受験生を迎え入れ、ともに目標を目指そうという医学進学コースに入学するための入試方法です。

このコースをつくり、新しい入試を加えることで、「理数インターは何か変わり、何が変わらない?」という切り口から、インタビューを受けた記事を紹介しします。

また、この12種類のうち、神国入試を除く11種類の入試すべてを「予想偏差値表」に網羅してくださっているのは、首都圏模試センターだけです。

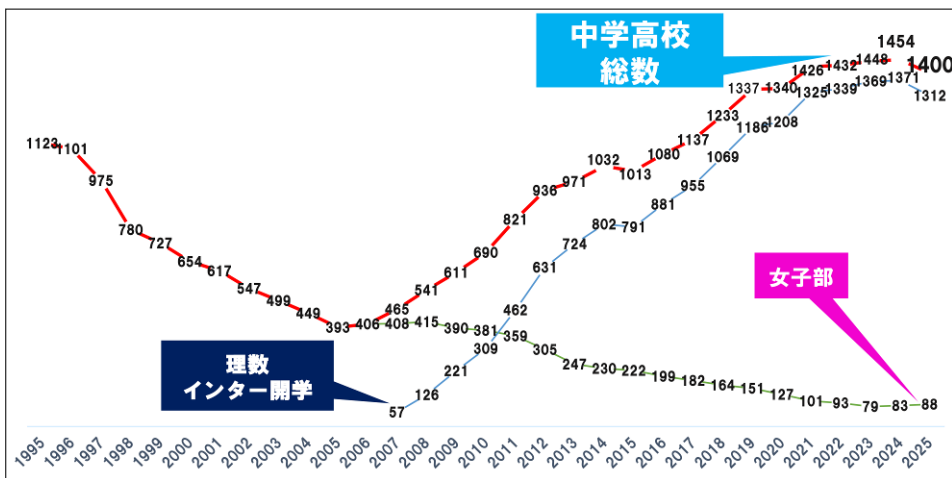
この偏差値表は、本校紹介ページの次に掲載されていて、受験生にとっては、見やすいものになっているような気がします。ご参考まで。

ここでは、入試方法の一つひとつを説明することではなく、これらの試行が入試結果や進路結果に及ぼした影響や、なにより直近 10 年の学校文化の展開から感じることにについて話を進めたいと思います。

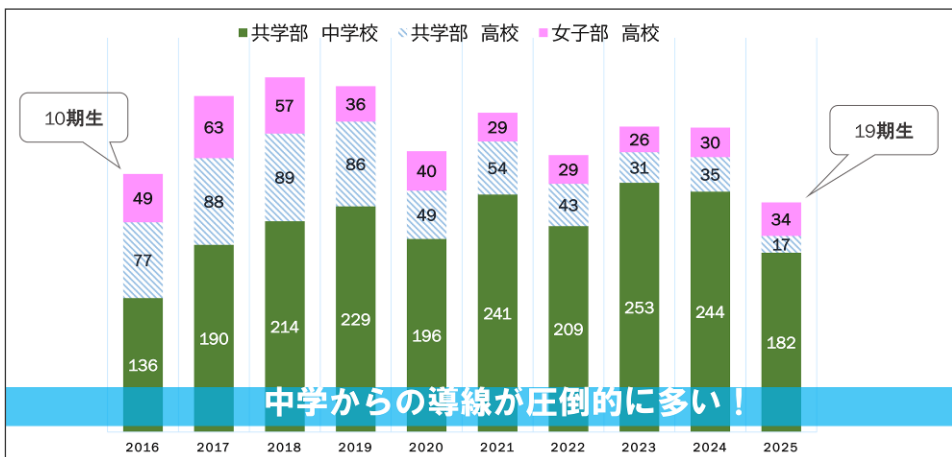
A) アドミッション・ポリシーの明確化

まず、2016 年以降の生徒数ですが、増加を続け、女子校時代を含めても、過去最多を更新するに至りました（資料 5）。増加の要因は、共学部「理数インター」の入試結果によるものであり、入学者のかなりの割合は、中学受験からの入学者が占めています（資料 6）。このうち、新タイプ型入試で入学した生徒の割合は 2017 年以降も 1 割前後が続いているので（資料 7）、全体の一部に過ぎないということもできるかもしれません。しかし、そもそもこの新タイプ型入試を導入した目的は、偏差値以外の学習歴によっても中学受験が可能になる道を増やすことなので、12 歳が持っている可能性を多面的に評価する学校というアドミッション・ポリシーは理解していただける学校になったと考えています。

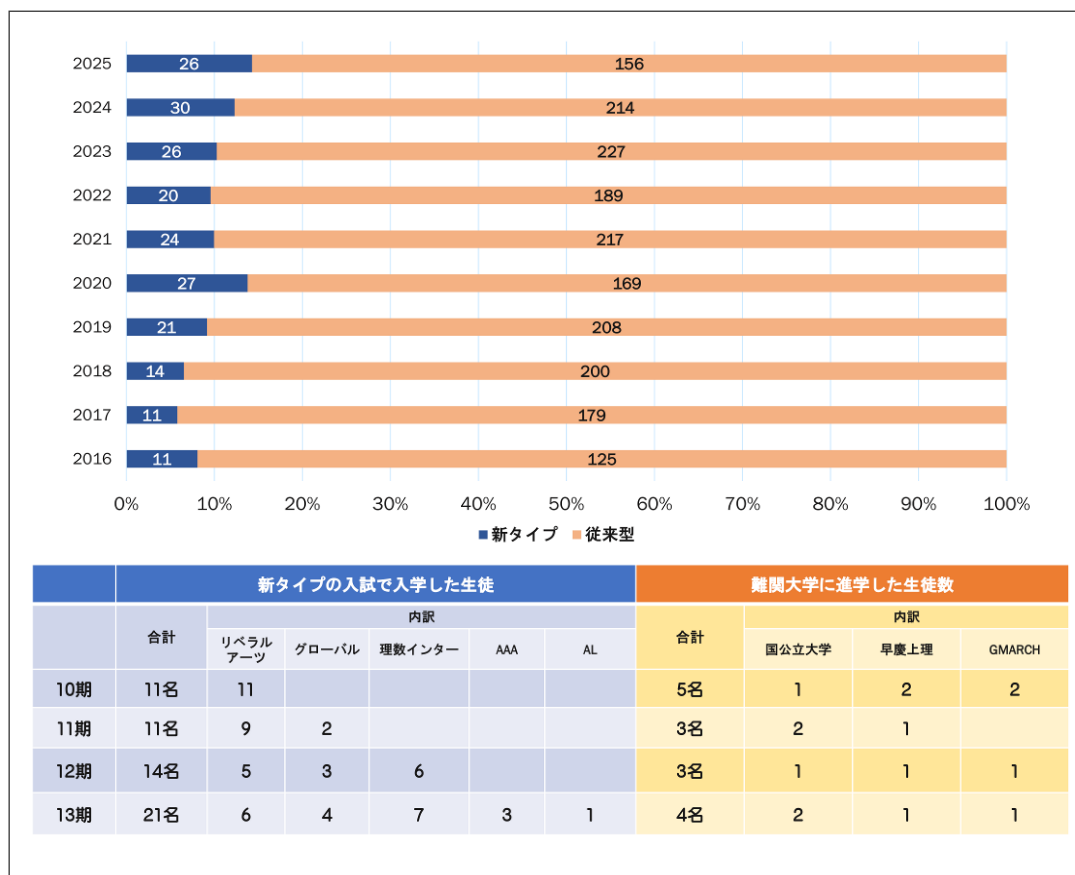
（資料 5）理数インター開設以降現在の中学校・高等学校生徒数



（資料 6）部門別手続者数（2017 年以降）



(資料 7) 入学者の入試方法



B) カリキュラム・ポリシーとの調和

次に、カリキュラム・ポリシーとの関係についてです。前述しましたように、そもそも「理数インター」とは、「理数」=ロジカル・シンキングに基づく「インター」=コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成という意味の教育コンセプトであると、創設時から語っていました。「インター」とは、文法でいえば接頭辞であり、「～の間」という意味なので、「人と人の間をつなぐもの」つまり「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」と、意識したわけですね。そのような出自の言葉なので、生徒には、自分の言葉で自分の思いをプレゼンすることの楽しさを、本校の楽しさとして感じてもらいたいと思っていました。そのため、学校行事にプレゼンをたくさん取り入れようとしてきました。「読書プレゼン」、「英語プレゼン」、「卒業プレゼン」等々です。中学生に一番楽しい授業を用意しようと思って有志教員に創ってもらったプレゼン型教科の名前を「理数インター」と命名したのも、同じ理由からです。

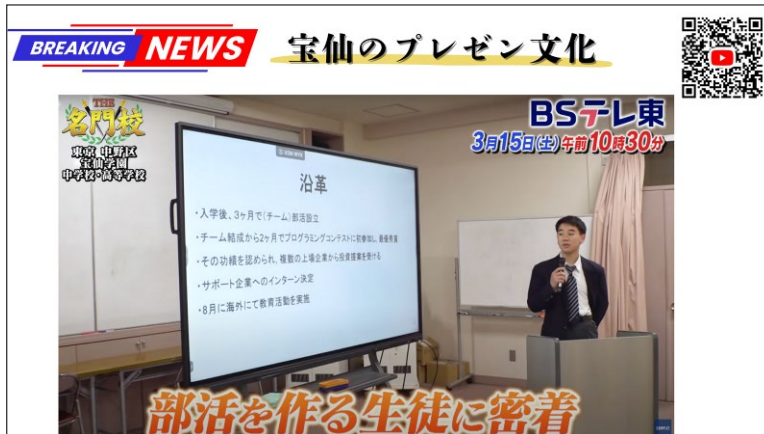
つまり、創設時からのカリキュラム・ポリシーに基づくアドミッション・ポリシーを10年目から実現したともいえるのではないかと、わたしは思っています。

C) 生徒によるカリキュラム・ポリシーの展開

以上は、わたしたち教員による学校デザインの試行ですが、直近の学校文化は、生徒自身によって展開する次元に入ってきたという事例を、いくつか挙げてみたいと思います。

部活を立ち上げるために、教員にプレゼンテーションをすることで、共感を得ようという試みがありました。仲間を募り、顧問を探すだけでなく、有効なアピール手段として、生徒たちから思いついた方法です。このプログラミング部の野心的な試みは、BS テレ東「THE 名門校」の取材と撮影に来校したスタッフの目に留まり、本校の特色を物語るトピックとして、フィーチャーされました（資料 8）。また、「理数インター」創設 20 周年の節目にあたり、制服のリニューアルを企画していましたが、7 社もの制服業者のプレゼンのジャッジの中心となったのは、有志の生徒たちです。自分たちが着ることのない新制服を、女子部のために、そして後輩のために、数年に及ぶ時間をかけて選ぶ作業は、学校の歴史に残ると讃えたいと感じています（資料 9）。

（資料 8）BS テレ東「THE 名門校」



（資料 9）新制服を制作サポートした生徒より



新制服をつくるにあたり「個性豊か」「しっかりと軸を持つ」「フォーマルとラフを選択する」という3つのコンセプトを大切にしました。一番こだわった正装のスカートは、同じデザインにすることで中高(共学)、高校女子部の3部門の統一感を出し、色を変えることで部門が分かるようにしました。また女子部のプリッツには「親子ひだ」という形を採用し、女子部ならではの特徴を制服に落とし込みました。新制服を作る上でこの制服を着ていく後輩たちへの思いなども考えました。この新制服に身を包んで、学校生活を楽しくてください。

制服リニューアル計画生徒代表より

これらの事例は、教員がデザインしたプレゼン文化を、生徒が普段使いするようになったという意味を持つのではないかと思います。それは、アドミッション・ポリシーからつながるプレゼン文化が、本校らしく大衆化してきたといえるのではないかと考えています。

D) グラデュエーション・ポリシーとの関係

それでは、本校のカリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの調和と展開は、進路結果にどのような影響を与えたのでしょうか。9年前の文章で紹介したように、本校は最初の10年で、学力を伸ばす学校という外部評価を得ました（資料1）。結果的には、その後の10年も、この評価は継続しています（資料10）。

（資料10）学力を伸ばす学校（2024年度入試）

2024年 学力を伸ばした学校 首都圏模試版										2024年 学力を伸ばした学校 首都圏模試版									
対象校：首都圏／男子校・共学校／偏差値55未満					対象実績：GMARCH					対象校：首都圏／女子校・共学校／偏差値55未満					対象実績：GMARCH				
偏差値範囲	学校名	学校種別	NO	①2018年首都圏模試結果偏差値	②2024年卒業生10人当たりの合格者数	③②の合格数に相当する偏差値	④学力の伸び＝偏差値の差(③-①)	⑤学校数(④がマイナスの学校含む)	⑥⑤の平均(④がマイナスの学校含む)	偏差値範囲	学校名	学校種別	NO	①2018年首都圏模試結果偏差値	②2024年卒業生10人当たりの合格者数	③②の合格数に相当する偏差値	④学力の伸び＝偏差値の差(③-①)	⑤学校数(④がマイナスの学校含む)	⑥⑤の平均(④がマイナスの学校含む)
偏差値50以上55未満	東洋大学京北	3共学校	1	50	97.6	59.8	9.8			東洋大学京北	3共学校	1	50	97.6	60.1	10.1			
	福明館	3共学校	2	54	91.4	59.1	5.1			福明館	3共学校	2	54	91.4	59.5	5.5			
	日本大学第三	3共学校	3	50.5	57.3	54.0	3.5			日本大学第三	3共学校	3	50.5	57.3	54.0	3.5			
	日本大学第二	3共学校	4	50.5	49.7	54.0	3.5			日本大学第二	3共学校	4	50.5	49.7	54.0	3.5			
	日本大学第一	3共学校	5	50.5	53.9	54.0	3.5			日本大学第一	3共学校	5	50.5	53.9	54.0	3.5			
	清泉女子	3共学校	6	54	55.4	55.5	1.5	1	0.6	清泉女子	3共学校	6	54	55.4	55.5	1.5	1	0.6	
	城西大学	1男子校	8	52	53.0	53.1	1.1			城西大学	1男子校	8	52	53.0	53.1	1.1			
	西武学園文理	3共学校	9	52	48.0	52.0	0.0			西武学園文理	3共学校	9	52	48.0	52.0	0.0			
	かえつ有明	3共学校	10	54.5	42.4					かえつ有明	3共学校	10	54.5	42.4					
	春日部共栄	3共学校	11	50	27.9					春日部共栄	3共学校	11	50	27.9					
偏差値45以上50未満	狭山ヶ丘高等学校付属	3共学校	12	53	33.3					狭山ヶ丘高等学校付属	3共学校	12	53	33.3					
	八千代松陵	3共学校	13	51	26.3					八千代松陵	3共学校	13	51	26.3					
	宝仙学園理数インター	3共学校	1	49	101.4	60.2	11.2			宝仙学園理数インター	3共学校	1	49	101.4	60.5	11.5			
	日出学園	3共学校	2	47	71.3	56.3	9.3			日出学園	3共学校	2	47	71.3	57.0	10.0			
	東京電機大学	3共学校	3	48	62.3	54.9	6.9			東京電機大学	3共学校	3	48	62.3	55.6	7.6			
	獨協埼玉	3共学校	4	49	59.0	54.3	5.3			獨協埼玉	3共学校	4	49	59.0	55.1	6.1			
	土浦日本大学	3共学校	5	45	29.0	46.5	1.5			土浦日本大学	3共学校	5	45	29.0	47.9	2.9			
	多摩大学附属聖ヶ丘	3共学校	6	46	25.6					多摩大学附属聖ヶ丘	3共学校	6	46	25.6					
	八雲学園	3共学校	7	47	20.5					八雲学園	3共学校	7	47	20.5					
	藤沢学園藤沢	1男子校	8	47	17.2					藤沢学園藤沢	1男子校	8	47	17.2					
	東京農業大学第三	3共学校	9	47	17.1					東京農業大学第三	3共学校	9	47	17.1					
偏差値	浦和実業学園	3共学校	10	47	10.3					浦和実業学園	3共学校	10	47	10.3					
	埼玉栄	3共学校	11	48.5	11.7					埼玉栄	3共学校	11	48.5	11.7					
	西武台新座	3共学校	12	48	4.1					西武台新座	3共学校	12	48	4.1					

この関係は、そう単純ではないと思います、つまり、生徒数が増えたことを追い風に、中学の入学偏差値を上げる方針よりも新タイプ型入試を導入する方針を優先した事実と、どのような関係があるのかということになるからです。

2015年に校長となったわたしが学校づくりの方針として掲げたのが、「知的で開放的な広場」であり、生徒に語ったのは、目標とすべきは「自己ベストの更新」とであるということでした。

「知的で開放的な広場」とは、学校という組織が、かくありたいという表現です。もちろん、人によって解釈は自由ですが、「自分で考える、失敗を恐れない、個性を生かす」というマインドセットに満ちた空気感の学校が、毎日登校したくなる学校ではないかというほどの意味で創ったフレーズです。「自己ベストの更新」とは、生徒へのエールです。「他人と比べられる必要はない、ベストを尽くしたと自分が判断できることが大事」というほどの意味で用いています。

もちろん、これらの言葉は、実は生徒だけではなく、教員にも保護者にも卒業生にも届けたいと思っていました。

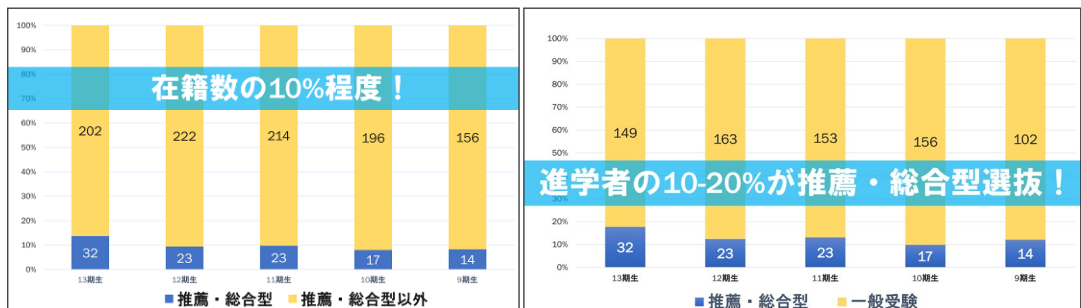
「知的で開放的な広場」というフレーズは、説明してきた「プレゼン文化」と親和性を持って受け止めていただけると想像しますが、「自己ベストの更新」は、生徒の進路決定にもかかわるスローガンでもあり、つまりはグラデュエーション・ポリシーです。本校は、最初の卒業生の進学実績に伴い進学した大学から提供された「指定校推薦制度」に頼らない、進路支援をモットーとしています。この制度は、大学から提供された「恩恵」が、出身校に対してであり、在校生個人に対してではない「制度」であるからというのが、その理由です。つまり、「自己ベストの更新」を目指す文化にはなじまない性質ではないかという考え方です。

総合型選抜入試での合格者が多数を占めるようになってきたというのが、近年の大学入試の傾向とされています。学力観の多様化が、入試の多様化というかたちで表現されているのであれば、それは望ましいことだと、わたしも思います。

一方、わたしは、12歳の中学入試と18歳の大学入試は、そもそも次元が異なる入学試験だと思っています。学習習慣を身につける練習が前者の意義だとすれば、6年間の成果を発揮する機会が后者の意義だと思っています。この6年間で、成長・発達段階は大きく飛躍しており、自分で身につけた学力で自分の志望校に挑戦する段階に達していると考えからです。

そう考えるのであれば、大学受験を特定の志望先の総合型選抜入試で年内に終了させるのではなく、大学受験生が最も多く受験する共通テストを受け、その結果も踏まえつつ、一般入試に挑む生徒の勇気にエールを送ることの大切さを説き続けたいと思っています。結果として、本校は一般受験の進学実績が進学結果に占める割合が高い学校になっていると思います（資料11）。

（資料11）総合型選抜の占める割合（左：在籍における割合、右：（進学者における割合）



本校のアドミッション、カリキュラム、グラデュエーションの3つのポリシーは、生徒の成長・発達段階の自発的な学習歴を尊重しながら、教員はその結果ではなく過程に最善のコミットをするという流れで結びついていると思います。わたしが校長になって最初に変えた教育用語は、「生徒指導」を「生徒支援」に、「進路指導」を「進路支援」に、でした。言うならば、3つのポリシーに通底するものは、「支援文化」の創出を目指そうということになると思います。

5. これからの10年「理数インター」と宝仙学園

「理数インター」は、2026年に、20期生を迎えます。そして宝仙学園は、2028年に創立100周年を迎えます。

わたしにとっては、30歳を過ぎて初めて「定職」に就かせてもらったのが宝仙学園であり、組織の立ち上げを経験させてもらえたのが、「理数インター」でした（資料12）。「理数インター」20周年と宝仙学園100周年を、ご縁のあった方々と祝い、その後の発展に期待したいというのが、現在の立場であり、心境です。

高校授業料の無償化や首都圏中学受験率の上昇等、私学にとっては追い風もありますが、かつてない少子化の大波は、待ったなしに到来します。その時にあたって大切なことを取り違えないように、準備をしておく必要が、どの私学にもあると思います。それぞれの私学が、それぞれの「特色ある私学をめざして」、どのような準備をしておくのかということが、自分事として問われていると感じています。

（資料12）私事です・・・

富士晴英とゆかいな仲間たち
『できちゃいました！フツの学校』
(岩波ジュニア新書 2020年)



岩波ジュニア新書

TBSラジオ「篤信彦 人生百景 志の人たち」
2月16日、23日放映
<https://www.tbsradio.jp/articles/92800/>

